

高瀬神社 社報

越中一宮



第54号

越中高瀬神社
一宮

平成29年7月1日
<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

「自然の中で生きる」

宮司 藤井秀弘

季節の移ろいは早く、つい最近、新芽だった木々の葉はすっかり濃い緑となり、里山に吹く夏の風に揺れています。

私は移りゆく自然を感じながら朝夕、里山の中腹に鎮まります。氏神さまへお参りして、朝は氏子崇敬者の多幸と世の中の安寧を祈り、夕べには今日一日のご守護に感謝をして終業する生活を送っています。時に珍しいことに遭遇することもあります。例えば、早朝の境内。可愛い声で子と呼ぶ羚羊（カモシカ）の鳴き声が出て、どこからともなく子どもが出てきて、親子仲良く山へ帰って行く姿を見たことがあります。山沿いの神社ではありますが、同じ地域に住むご近所さんだったことに改めて気づかされました。また、自宅の下手に小さな畑を耕しており、現在、茄子・胡瓜・トマト・生姜・里芋・葱などを作っています。

最近ではイノシシ除けの電気柵も山裾に張り巡らされていますが、夜になると山から狸などが出てきて食べられてしまうことがあります。丹精込めて作る野菜ですが、彼らも生きていくために必死なのだろうと思うと分けてあげても良いのではと思います。数年前、庭の柿の実が熟した頃、熊が出て来て木の上に熊棚を作り、そこに腰掛けて柿の実を十分に食べて山へ帰って行くという騒ぎがあり、新聞にも出たことがあります。私の子供の頃はこのようなことはありませんでした。小学校五年生の時、祖父や父から、神職家を継ぐのなら山の氏子の春祭、秋祭を奉仕しなければならぬと言われ、装束の入ったカバンを背中に担いで、往復二十数キロの山道を一人でトボトボと歩き、氏子さんの家に泊まりながら数日かけて祭を奉仕したことを思

い出し、山道で熊に遭遇しなかったことを今さらながら神様に感謝しています。現在は車で行きますので、道中、何が出てきても怖いことはありませんが、身近にある自然の様子が何か変わってきていると思うことが多くなりました。私が子供の頃の自然の姿と今の自然の姿、出来事は違ってきていると感じています。

自然界には多種多様の動物が生きています。そこには妥協はなく、精一杯生きています。一匹の動物が生きたために努力をし、自分で自分の命を守ることに、その方法を考へて行動しています。生まれながらにして身につけていること、親に教えてもらっていること、次に学んでゆくことなど次々に学んでゆくのでしよう。最近、山の動物たちの行動が変化してきたということは、動物たちも今までの生活様式を変えて、「生きる」ことに更に真剣になっていくのではないかと思うのです。それに比べて人間はどうでしょうか。日々の生活において、他人頼みのことが多く、自分自身の力や責任で出来ることは少ないのではないかと思います。しかし、人間

には知恵があり、言葉があり、コミュニケーション能力が備わっているわけですから、自分一人で行くことが少ないならば、お互いに生き残るための助け合いや協力など、共に生きる方法を考えることが大切だと思います。

最近では全国各地で自然災害が発生して大変なことになっています。天気までは人間の力で変えることはできませんが、これまで長い年月、自然の営みの中で私たちは生活してきました。この間、数々の試練が訪れて、それを我々の祖先は知恵を出して克服し、生きてきました。ご先祖様たちが感じたように、神様が日々の生活を見つめ、我々を取り巻く環境のなかで、毎日の喜びと反省、努力や苦勞克服の方法を教えて下さると信じ、自身の持つ力を精一杯発揮して生活することが豊かな生活、生きがいを持つことになると思います。試練が訪れたと感じたときは、自分が試されているということであり、それを乗り越えて、どう生きてゆかかということが将来の幸につながると思うのです。

幣饌料御奉献奉告祭

第六十八回 全国植樹祭御臨席のため、五月二十七日から二十九日まで県内に行幸啓遊ばされた天皇皇后両陛下。このたびの行幸啓にあたり、旧官国幣社及び旧指定護國神社に幣饌料をお供えされる旨仰せ出され、二十七日、富山市内の行在所で伝達式が行われました。当神社では二十八日午前八時半より、責任役員・相談役・高瀬区長参列のもと「幣饌料御奉献奉告祭」を大祭式にて斎行し、謹んで御神前に奉奠申し上げました。六月七日には宮司が皇居へ御礼の御記帳に参りました。



祭事暦

春季祭(大祭)

四月十日午前十時より、満開の桜の花のもと「春季祭」を斎行しました。神社役員・氏子・農協の関係者など、約三十名が参列し、めぐり来た春を喜び、感謝しつつ、世の中の平安を祈りました。

式中、「浦安の舞」が奉奏され、参列者全員で「越中一宮高瀬神社奉賛歌」を奉唱しました。祭典後、篤志奉納者に感謝状と記念品を授与しました。

【篤志奉納者】

- 「大型テレビ」
- 寺西 清子 殿 (白寿記念)
- 寺西 友則 殿 (喜寿記念)
- 「本殿木階下門帳」一条
- 三谷千津子 殿 (還暦記念)



本殿木階下門帳

御神山「牛嶽」開山祭

六月六日午前十時より、山頂に鎮座する牛嶽社で「開山祭」を行いました。遠く立山まで見通せる快晴の下、砺波・富山両市の奉賛会会員や一般登山者が参列し、今年一年の山の平安と入山者の安全を祈願しました。※牛嶽社は標高九八七メートルに鎮座し、当神社の奥宮と称され、牛に乗った「大國主命像」が祀られている。



祈年穀祭(大祭)



六月十日午前十時より、農作物が虫害の影響なく豊作になるよう祈念する祈年穀祭を肅行しました。

祈年穀祭の起源は、飛鳥時代、深刻な病虫害が農作物に多大な被害を与えていたことに因ります。この事態を重く見られた天武天皇は、勅使を遣わされ、病虫害の収束と豊作を祈願されました。この出来事が祈年穀祭の始まりとされています。

神輿巡渡御行程

なんと農業協同組合



福光農業協同組合



いなば農業協同組合



となみ野農業協同組合



祭典では、古式に則り御神火を灯し、宮司祝詞奏上に続き、砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛が供えられ、参向使の福光野農業協同組合常務理事森田憲二氏による祭文が奏上されました。

本殿祭典後、奉仕員・参列者全員が向拝に整列し、御神火に拝礼し、本年の五穀豊穣を祈願しました。

また、功霊殿胴長太鼓張替一式を奉納された藤井義雄氏(当神社相談役)に感謝状が授与されました。

【篤志奉納者】
「功霊殿胴長太鼓張替一式」
高瀬神社相談役
藤井 義雄氏(米寿記念)

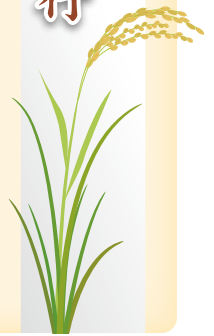


六月十二日には、神輿と御神火が砺波地区の各農業協同組合本店を巡行しました。各農協において組合長以下職員総出で神輿を迎え、本年の五穀豊穣を祈念しました。



献穀田だより

「御田植祭」齋行



奉耕者

松井竜也氏

井波地域中核農業士協議会(岩倉和弘会長)

天候に恵まれた五月二十日、南砺市北市の献穀田で「御田植祭」が斎行されました。

大勢の関係者が見守る中、早乙女姿の女子中学生五名が、松井竜也氏より「コシヒカリ」の苗を受け取り、心を込め丁寧に植えました。

九月中旬には「拔穂祭」を行い、収穫した稲は「懸税」として伊勢の神宮に奉納されます。



早乙女奉仕者

- 杉下 愛華さん (中学生)
- 川田安希穂さん (中学生)
- 池田 朱里さん (中学生)
- 長谷川 樹さん (中学生)
- 山田 美弥さん (中学生)

金婚祭

四月八日午前九時より、「金婚祭」が斎行されました。祭典前には、高瀬地区老人クラブ連合会(藤井正雄会長) 会員の皆様による、境内清掃が行われました。

清掃後、本殿にて金婚祭を斎行。会員の健康長寿を祈念し、宮司が祝詞を奏上、続いて巫女による浪連神楽「吾妻」が奉奏されました。祭典後、会員の皆様を迎え、参集殿にて宮司講話が行われました。



金婚者

- 南砺市高瀬 石橋 勇 和子 (ご夫妻)
- 小西 政寛 阿佐子 (ご夫妻)
- 田邊 義男 茂子 (ご夫妻)
- 傍田 敏男 香津子 (ご夫妻)
- (千歳会)

八乙女山風神堂遷座祭

六月四日、八乙女山風神堂遷座祭を行いました。祭典当日、御遷座に御尽力された方々を始め、この日を心待ちされた崇敬者、約百名が参列されました。遷座祭後、例年の通り風神堂例祭を斎行し、八乙女山風神太鼓の奉納演奏が行われました。



献花祭



六月十七日午前十時より、「第四十三回高瀬遺跡菖蒲まつり」に先立ち、献花祭を行いました。祭典では、菖蒲の花が神前に供えられ、高瀬遺跡菖蒲まつり実行委員長・高瀬地区自治振興会長・責任役員が玉串拝礼を行いました。



ご案内

歯固め石

当社社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生え始める時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のように丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



戌の日 (安産祈願)

7月	10・22日
8月	3・15・27日
9月	8・20日
10月	2・14・26日
11月	7・19日
12月	1・13・25日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

『全国一の宮御朱印帳 特製巾着袋』の授与

全国に約一〇〇社ある「一の宮」。古くから各地域において厚く信仰されてきました。「御朱印」は、このような神社を参拝し、各神社の大神様の御神徳をいただく為のものです。社頭では、五月より従来の御朱印帳・ガイドブックに加え、御朱印帳を保護する為の特製巾着袋の授与を始めました。お参りの際、実際に手にとってご覧下さい。



御朱印帳 (大)

三〇〇〇円



御朱印帳 (小)

一〇〇〇円



ガイドブック

一〇〇〇円



新ガイドブック

一〇〇〇円



巾着袋

一五〇〇円

※雲立(浦柄(桃色)と青海波柄(青色)の二種類をご用意しています。

高瀬の英霊

(石岡庄五郎命)

(魚岸一弥記)

石岡庄五郎命は、旧高瀬村（現富山県南砺市高瀬）の海軍軍人です。昭和十八年（一九四三）五月に舞鶴海兵団に入団、第十二分隊七教班に所属し、駆逐艦「藤波」に乗艦し、大東亜戦争を戦われました。

石岡庄五郎命は、前号の「高瀬神社の思い出」を寄稿下さった石岡政清氏の兄君に当り、この度お話を伺う機会を得ました。石岡庄五郎命は、大正十二年、石岡幸次郎の長兄として生まれ、出征前には当地方の井波郵便局に勤められておられました。

当神社の社務日誌には、昭和十八年四月二十四日午後五時に、近隣の集落の応召者十一名とともに奉告祈願祭を斎行した記録があり、翌月より舞鶴に赴かれていきます。



海兵団の訓練は大変厳しいもので、友人にそのことを零してしまふこともあつたそうですが、御家族には心配を掛けまいと一切そうしたことは仰られなかつたそうです。石岡家には、入団後も御家族と連絡を取り合つた軍事郵便が残されていますが、その文面にも、「小生も益々元気で軍務に精励致し居りますから他事乍ら御安心下さい」と記されています。

また同家には、入団に当り関係団体、近隣住民からの餞別者をまとめた帳面が残されています。今号では、最後にこちらを紹介致します。

昭和十八年五月三日
五月一日午後二時九分出奔
石岡庄五郎入団餞別帳
舞鶴海兵団入団

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|---------|----------|------|
| 石岡庄五郎 | 石岡伊三郎 | 中村与一 | 傍田善治 | 納村栄吉 | 吉岡正雄 | 本田弘 | 岩倉文夫 | 藤井朔郎 | 古川勇作 | 中島弥一郎 | 岩倉清一 | 岩倉与三郎 | 古川勇作 | 吉田善蔵 | 野守辰蔵 | 吉田辰蔵 | 片山嘉一郎 | 松原寺太郎 | 富山県知事 | 高瀬村各種団体 | 通信報国団井波班 | |
| 中島辰男 | 石岡芳雄 | 石岡伊三郎 | 中島与一 | 長井外平 | 中島正一 | 中島与三二 | 高瀬青友会 | 小西文吉 | 高瀬大宮司 | 城屋 | 井口村広安 | 今井常右衛門 | 中島与三二 | 中島正一 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 | 石岡篤治 |
| 石岡武久 | 石岡次平 | 石岡久三 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | 石岡清政 | |
| 中島幸弘 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | 中島幸徳 | |

観月祭 大土地神楽奉納

平成二十五年、二十七年と好評を博しました島根県の伝統芸能「大土地神楽」が、本年も高瀬神社で奉納されます。

日時 九月三十日(土)
午後五時から
観月祭

午後六時から
大土地神楽奉納

場所 高瀬神社御本殿
名称 大土地神楽

保持者 (国指定重要無形民俗文化財)
大土地神楽保存会神楽方

所在地 島根県出雲市大社町杵築西

会長 桐山和弘
会員数 三十二名
(平成二十九年五月現在)

発足 約三百年前

概要 大土地神楽は、古くから大土地荒神社の神主によって舞われていましたが、寛政十年(一七九八年)の「袴家順番帳」等の記録によると、宝暦年間



(一七六〇年前後)には既に素人神楽が舞われ、その頃から子どもも舞を奉納していることが確認でき、三百年以上途絶えることなく民衆に



よって受け継がれています。平成十七年二月には国の「重要無形民俗文化財」に指定されており、

その舞い振りや奏楽は、毎年十月の大土地荒神社例祭で、昔ながらの形で受け継がれており、出雲大社の門前町として、盛んだった芝居興行による影響もあってか、とかく観衆を意識し、楽しませる所作・演出が随所に見受けられます。また能舞の要素が多分に含まれた舞いも残っており、腰に「まくら」を背負った上に衣装を着けるといった、独特な容姿となっています。

現在の活動としては、大土地荒神社例祭はもとより、出雲大社例祭への奉納神楽、県内外での公演もしています。平成四年にアメリカ・ポートルランドやエレンズバーグ、平成五年には、フランスの「パリ日本文化祭」やイギリス・ロンドンで



の公演といった好機に恵まれ、国外でも神楽を披露することが出来ました。また、国譲り神話の舞台で「稲佐の浜夕刻篝火舞」を自主開催する等、神楽の素晴らしさを一人でも多くの方に知っていただくよう公演活動も行なっております。



高瀬神社注連縄奉納講のご案内

注連縄奉納奉告祭

日時 十二月二十日(水)

「注連縄奉納講」は、大神様の御神徳に感謝し、年末に注連縄のかけ替えを行っています。注連縄は、県内で収穫された稲わらを用い、奉賛者の願い事を記した用紙を一緒に編みこんで大神様の更なる御加護を戴くことを願い、奉納致します。



◆ 一口 一万円

◆ 締切

平成二十九年
九月三十日

◆ 奉賛者名、願意を記入戴いた用紙を注連縄に編み込んで、成就を願います。奉納者名は向拝に掲示します。

◆ 申し込み方法
申し込み用紙をご記入になり社務所へお申し込み下さい。
※申し込み用紙については社務所へお問い合わせ下さい。

七夕祭・技芸上達祈願祭のご案内

日時 八月七日(月) 午後三時より

八月七日に「七夕祭」を行います。織姫さまの裁縫上手にあり、習い事が上達するように祈願する「技芸上達祈願祭」を行います。ご家族お揃いで是非お参り下さい。

なお、七月十五日(土)から八月七日(月)まで御本殿前にて短冊を用意してありますので、自由に願い事を書いて納めて下さい。



団体参拝日誌抄 (平成二十九年四月〜六月)

平成二十九年
四月

- 三日 株式会社かんてん
エルファーム
- 五日 菅嶋工業株式会社
(新入社員御祈禱)
- 五日 西部森林組合
- 六日 南砺市交通安全協会



「春の交通安全運動」出発式

● 十二日 南砺市シルバー
人材センター

- 十九日 一の宮巡りの旅
ご一行
- 二十二日 砺波神社総代
(北海道)



齋主による挨拶

- 二十七日 パルスエンジニアリング
株式会社
(創立記念参拝)

五月

- 二十四日 株式会社神下組
- 二十七日 クラブツーリズム
名古屋

- 六月
- 四日 颯々会さつき会



謡曲の発表会 (参集殿)

- 四日 滋賀県神社庁
伊香支部
- 五日 伊香保神社総代
- 十一日 春日部八幡神社



拝殿にて正式参拝

- 二十四日 山田こんびら会
- 二十九日 砺波高校野球部
UPSトラベル
(敬称略)

団体参拝のご案内

古来より様々なご縁を結ぶ福の神・結びの神である大國主命おおくぬしのみこと(大國様)をおまつりする当社では、会社の参拝(安全祈願・創業記念日)、必勝祈願、同窓会記念参拝等の各種団体の祈願を受け付けております。お問い合わせは社務所へお願いします。

宝物殿のご案内

古代の石器や加賀藩主前田家奉納品など、当社社縁めがかりの宝物を展示しています。ご参拝の際は、どうぞご観覧下さい。

開館日時

事前に社務所へお申し込み下さい。

拝観料 無料



奉納

○「本殿御簾」赤本絹大和錦縁
高瀬神社宮司

藤井 秀弘 殿



○「功霊殿胴長太鼓張替」

高瀬神社相談役

藤井 義雄 殿



○「萬歳額装」

株式会社 竹重

宮司米寿祝に御奉納戴きました。萬歳幡の由来は吉祥の所以で天皇御即位式におかれましては、階前に掲げられます。



○「参道玉砂利」

富山市八人町

株式会社 岡部

代表取締役

稲積 欣治 殿

○「参道玉砂利」

○「紅葉」六本

南砺市坪野

株式会社 藤井組

代表取締役社長

藤井 秀之 殿

○「境内剪定作業」

小矢部市津尻

株式会社 越路ガーデン

○「玉葱」一箱

農事組合法人 勸学院

○「納札箱」

大和弥寿夫 殿

大和 秀夫 殿



○「本殿祈祷申込書記入机」

南部建具店

南部 進 殿



○「舞扇」一對

元巫女・結婚式事務員

藤井 友希 殿

元巫女

今井 茉里奈 殿



○掃除機

元巫女・結婚式事務員

藤井 友希 殿

辞令

藤井 友希

結婚式事務員を免ずる

平成二十九年六月三十日

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。
(〇七六三) 八二一〇九三二

〔表紙写真〕

子育てに励む境内の鷺

越中一宮 高瀬神社 ブライダル

縁結びの神様に誓う
 伝統の結婚式を挙げていただく、
 一生に一度の日だからこそ、
 一日一組のカップルの為だけに、
 このバンケットは生まれました。



一日一組限定の

おもてなしバンケットホール

このバンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。
 お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

只今
 春の婚礼
 ご予約
 受付中

縁結びの神様のもとで幸せのお手伝いをしてみませんか

やさしいあなたの力を必要としています



土・日・祝日の空いた月曜日だけ! 事前にシフトを決めて働きましょう!!
 未経験者歓迎! 丁寧に教えます!

仕事内容 結婚式・披露宴でのサービス業をご担当いただきます
 勤務時間 土・日・祝日/9:00~18:00の間(披露宴時間による)
 勤務地 南砺市高瀬291 高瀬神社内
 給与 時給1,000円以上 研修30hは時給900円
 待遇 制服貸与 食事手当500円

月単位のシフト制なのであなたの都合に合わせて働けます

高瀬神社 ブライダル事業部
 Tel (0763) 82-1131 中井 面接随時・先ずはお電話を

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
 ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索